

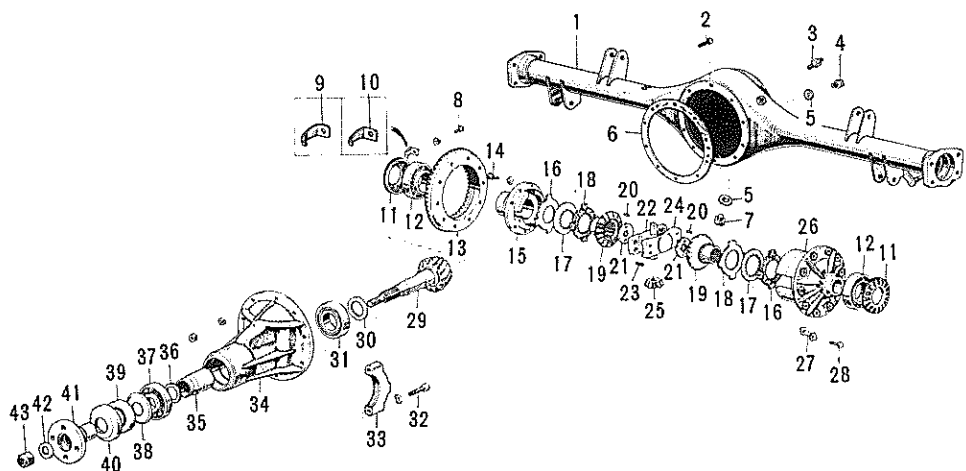
デイフアレンシヤル

構成部品	5-2
取りはずし	5-3
分 解	5-4
点 検	5-4
調 整	5-5
組み付け	5-7
取り付け	5-8

5

リヤ アクスルハウジング

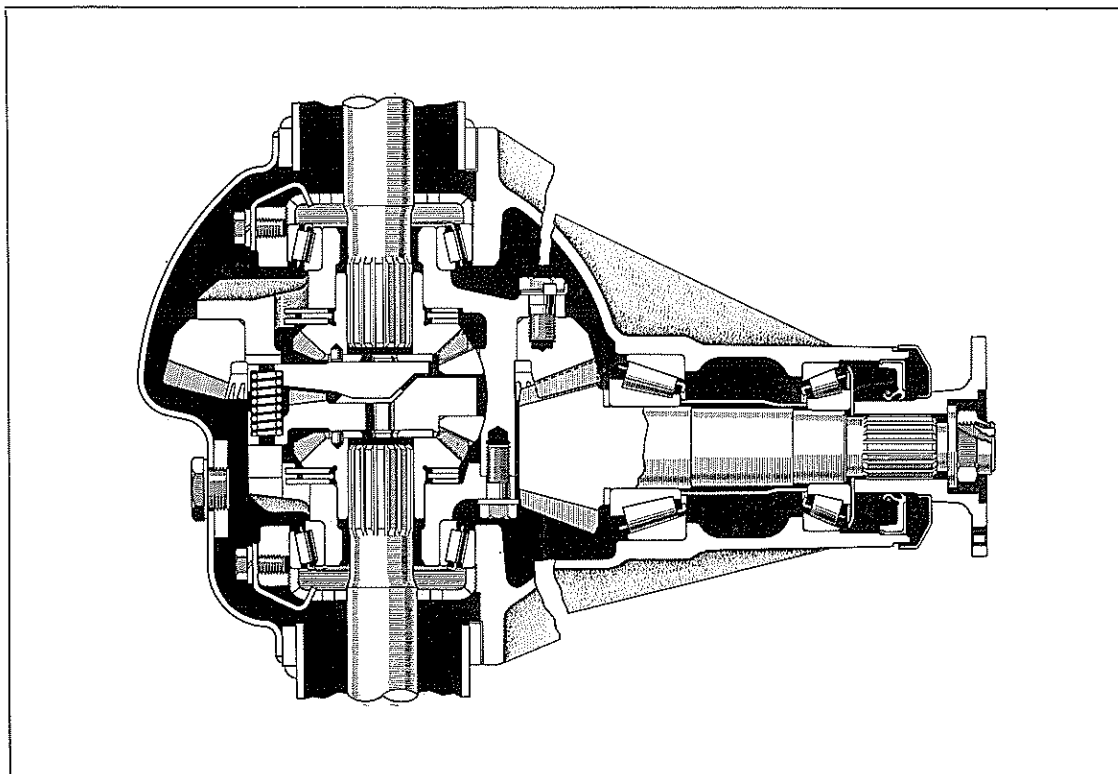
構成部品



- | | | | |
|----|--|----|-------------------------------|
| 1 | ハウジング アッセンブリ, リヤ アクスル | 22 | メンバ, クラツチ, ライト |
| 2 | ボルト, セレシジョン | 23 | スプリング, コンプレッション |
| 3 | プラグ, ブリーザ | 24 | メンバ, クラツチ, レフト |
| 4 | プラグ, ウィズ ヘッド ストレート スクリュ | 25 | ピニオン, デイファレンシヤル |
| 5 | ガスケット, ドレーン プラグ | 26 | ケース, デイファレンシヤル |
| 6 | ガスケット, デイファレンシヤル キヤリヤ | 27 | プレート, リング ギヤ セツト ボルト ロック |
| 7 | プラグ サブ アッセンブリ, ウィズ ヘッド ストレート
スクリュ | 28 | ボルト, ヘキサゴン |
| 8 | ボルト | 29 | ピニオン, デイファレンシヤル ドライブ |
| 9 | ロツク, デイファレンシヤル ベアリング アジヤステイング
ナツト, No.2 | 30 | ワツシヤ, プレート |
| 10 | ロツク, デイファレンシヤル ベアリング アジヤステイング
ナツト, No.1 | 31 | ベアリング, テーバード ローラ |
| 11 | ナツト, デイファレンシヤル ベアリング アジヤステイング | 32 | ボルト, ヘキサゴン |
| 12 | ベアリング, テーバード ローラ | 33 | キヤツプ, デイファレンシヤル キヤリヤ |
| 13 | ギヤ, デイファレンシヤル リング | 34 | キヤリヤ, デイファレンシヤル |
| 14 | ボルト, ヘキサゴン | 35 | スベーサ, デイファレンシヤル ドライブ
ベアリング |
| 15 | カバー, デイファレンシヤル ケース | 36 | ジム |
| 16 | ワツシヤ, サイド ギヤ スラスト | 37 | ベアリング, テーバード ローラ |
| 17 | プレート, クラツチ | 38 | スリング, ドライブ ピニオン オイル |
| 18 | ワツシヤ, サイド ギヤ スラスト | 39 | ツール, タイプ T オイル |
| 19 | ギヤ, デイファレンシヤル サイド | 40 | デフレクタ, ダスト |
| 20 | ピン, ストレート | 41 | フランジ, ドライブ ピニオン コンパニオン |
| 21 | ワツシヤ, クラツチ メンバ スラスト | 42 | ワツシヤ, プレート |
| | | 43 | ナツト |

第5-1図 リヤ アクスル構成部品

S1584



第5-2図 リヤ アクスル断面図

S1183

5

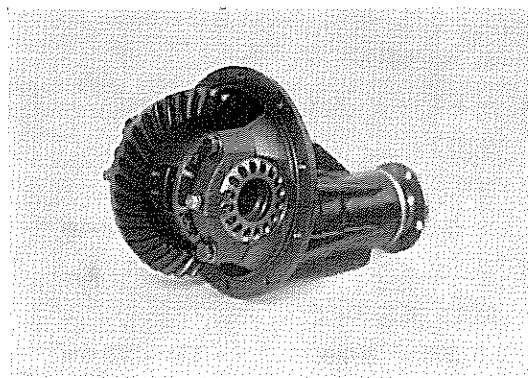
取りはずし

- 1 リヤ アクスルよりデフアレンシヤル キャリヤ アツセンブリを取りはずす。

注

ドライブ ピニオン アンド リング ギヤ およびベアリング、オイル シール等の修理要領は既刊のトヨタット コロナ マークⅡ修理書(1972-1, 品番67283)と同じですのでマークⅡ修理書を参照すること。

ドライブ ピニオン 歯数	8
リング ギヤ 歯数	35
ギヤ比	4.375
ドライブ ピニオン プレロード	
ベアリング新品使用時	
SST使用	3.8~5.2 kg (19~26 kg-cm)
ベアリング再使用時	
SST使用	0.84~2.4 kg (4.2~12kg-cm)
サイド ベアリング プレロード	
リング ギヤ軸方向の遊び	0から 1.0~1.5 ノツチ
締め込む	
リング ギヤ バツクラツシユ	0.13~0.18 mm

第5-3図 デフアレンシヤル キャリヤ C1104
取りはずし

リング ギヤの振れ限度	0.07 mm
デフアレンシヤル ケース振れ限度	0.04 mm
サイド ギヤとクラツチ メンバのスラストすき間	0.03~0.15 mm
ドライブ ピニオン締め付けトルク	1100 kg-cm以上
サイド ベアリング キャツプ締め付けトルク	700~900 kg-cm
リング ギヤ セツト ボルト締め付けトルク	920~1050 kg-cm

分 解

分解時の注意

- 1 ケースとケース カバーの合せ マークを確認しておくこと。
- 2 クラッチ メンバ RHと LHの合せマークを確認しておくこと。
- 3 組み付け時サイド ギヤ, クラッチ プレート, 各スラスト ワツシャ等 再使用部品はもとの位置に組み付けられるように整理しておくこと。
- 4 ケース カバー取り付け ボルトは弛み防止剤が使用してあるから取りはずし困難な場合は加熱すること。加熱する場合はオイル ヒータ等で150°C程度に均一に加熱すること。

- 1 ケース カバー取り付け ボルトを取りはずし ケース カバーを取りはずす。
- 2 デイファレンシャル ケースより 右図構成部品を取りはずす。

点 検

分解した部品は洗浄, 点検し不具合のある場合は交換する。

- 1 ケースおよびケース カバー (第5-6図矢印1)
 - 1) き裂, 変形, 各かん合部の摩耗, 損傷, ねじの損傷等
- 2 サイド ギヤ スラスト ワツシャ (第5-6図矢印2)

摩耗, 損傷

厚さ 基準値 2.485~2.515 mm
- 3 クラッチ プレート (第5-7図矢印1)

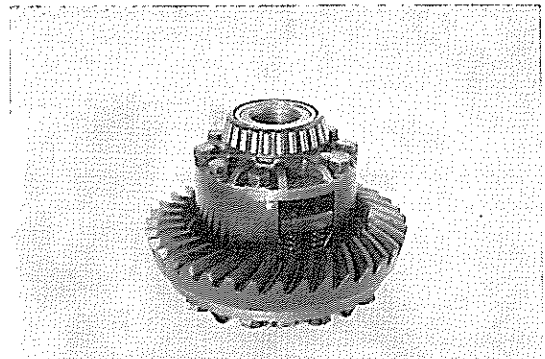
摩耗, 損傷

厚さ 基準値 1.98~2.02 mm
- 4 サイド ギヤ スラスト ワツシャ (第5-7図矢印2)

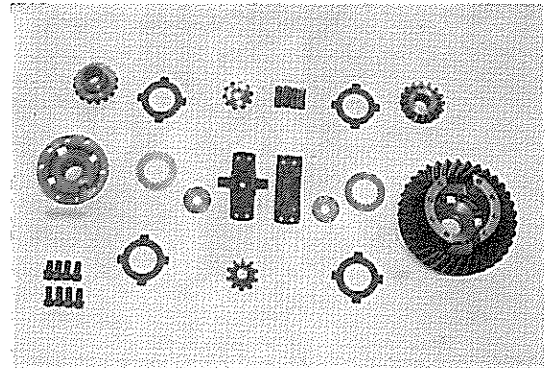
摩耗, 損傷

第5-1表 スラスト ワツシャ厚さ

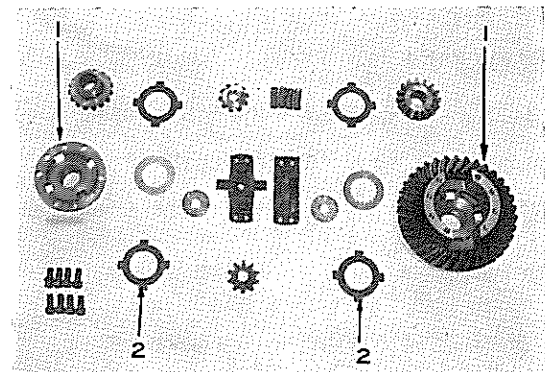
判別マーク	厚 さ mm
1	1.785 ~ 1.815
2	1.835 ~ 1.865
3	1.885 ~ 1.915
4	1.935 ~ 1.965
5	1.985 ~ 2.015
6	2.035 ~ 2.065



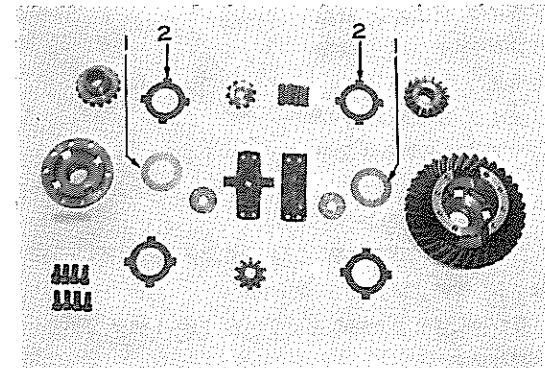
第5-4図 デイファレンシャル ケース分解 C1105



第5-5図 デイファレンシャル分解 C1106



第5-6図 ケースおよびワツシャ点検 C1106



第5-7図 プレートおよびワツシャ点検 C1106

- 5 クラッチ メンバ スラスト ワツシヤ (右図
矢印1)

摩耗, 損傷

厚さ 基準値 2.965~3.035 mm

- 6 コンプレッション スプリング (右図矢印2)

折損, 衰損

自由長 基準値 34.7 mm

取付長 28.0 mm

取付荷重 基準値 40 kg

- 7 クラッチ メンバ L H, およびケース

クラッチ メンバ L Hの幅A

基準値 41.975~42.00 mm

ケースの幅B 基準値 42.00~42.025 mm

クリアランス 基準値 0.05 mm以下

調 整

ケース内部サイド ギヤ軸方向のすき間をサイド
ギヤ スラスト ワツシヤの選択によつて調整す
る。

すき間基準値 0.03~0.15 mm

- 1 M.D寸法 (マウンティング ディスタンス)
は下表のように分類されケースおよびケース
カバーの合せマークを兼ねてA~Eの記号が
打刻されている。

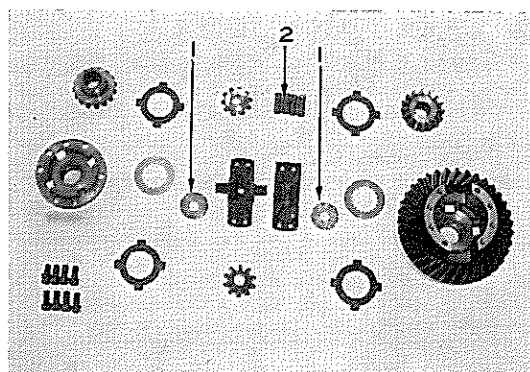
第5-2表 M.D寸法と打刻マーク

打刻マーク	M.D寸法 (mm)
A	74.98 ~ 75.01
B	75.01 ~ 75.04
C	75.04 ~ 75.07
D	75.07 ~ 75.10
E	75.10 ~ 75.13

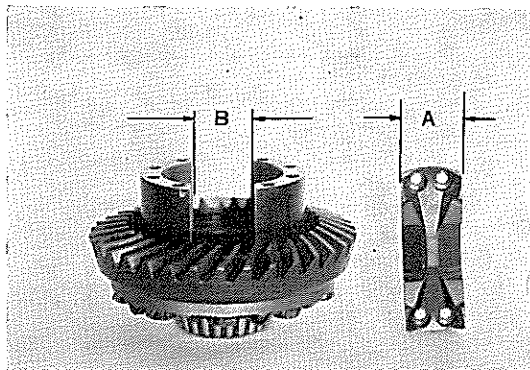
- 2 SST〔09411-22010〕を使用してL寸法を測
定する。

測定法

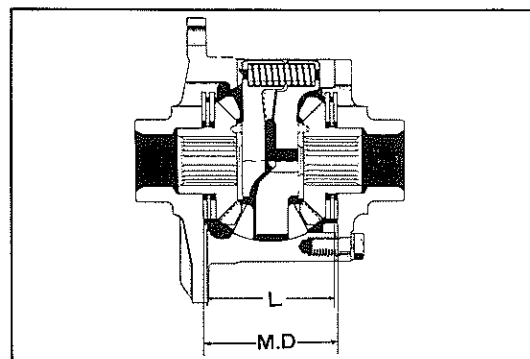
- SSTのナット①を締め込みスプリング②を圧縮しておく。
- 測定部品を右図のようにSSTに取り付ける (スプリングは取りはずしておくこと)。
- SSTのナット①を自由状態まで弛める (スプリングの圧着力は約10kg)
- 測定部品をセンターリングさせL寸法を測定する。



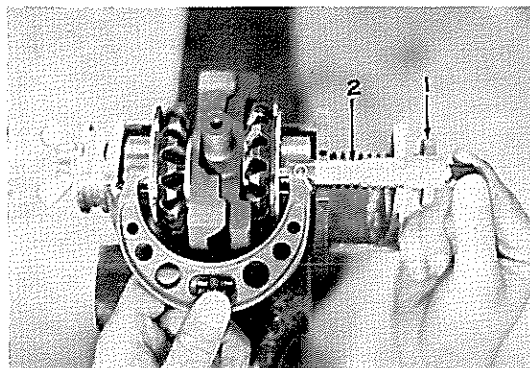
第5-8図 ワツシヤおよびスプリング点検 C1106



第5-9図 クラッチ メンバ L H および
ケース点検 C1107



第5-10図 M.D, L寸法 G9457



第5-11図 L寸法測定 C1218

3 スラスト ワツシヤを選択する。
 前記M.D寸法（ケース打刻マーク）とL寸法
 を第5-4表より選択する。

第5-3表 スラスト ワツシヤ寸法

判別マーク	1	2	3	4	5	6
厚 さ (mm)	1.80 ± 0.015	1.85 ± 0.015	1.90 ± 0.015	1.95 ± 0.015	2.00 ± 0.015	2.05 ± 0.015

注

選択されたワツシヤの厚さの異なる場合は厚い方を
 リング ギヤ測に使用する。

第5-4表 スラスト ワツシヤ選択表

注 ○の中の数字は第6-3表による判別マークを示す。

L寸法	記号	A	B	C	D	E
	寸法	74.98 < M. D ≤ 75.01	75.01 < M. D ≤ 75.04	75.04 < M. D ≤ 75.07	75.07 < M. D ≤ 75.10	75.10 < M. D ≤ 75.13
70.91 < L ≤ 70.94					⑥ + ⑥	
70.94 < L ≤ 70.97					⑥ + ⑤	
70.97 < L ≤ 71.00				⑤ + ⑤		
71.00 < L ≤ 71.03						
71.03 < L ≤ 71.06				⑤ + ④		
71.06 < L ≤ 71.09				④ + ④		
71.09 < L ≤ 71.12			④ + ③			
71.12 < L ≤ 71.15						
71.15 < L ≤ 71.18				③ + ③		
71.18 < L ≤ 71.21			③ + ②			
71.21 < L ≤ 71.24						
71.24 < L ≤ 71.27			② + ②			
71.27 < L ≤ 71.30		② + ①				
71.30 < L ≤ 71.33	① + ①					

- 4 サイド ギヤ スラストすき間の有無を確認する。

- (1) 選択したスラスト ワツシャを上記測定部品とともにケースに仮り組み付ける。

注

- 1 スプリングおよびピニオンは除く。
2 スラスト面にオイルを塗布する。

- (2) ケース カバーを取り付け、ボルトを規定トルクで締め付ける。(ゆるみ防止剤は不要)

- (3) アクスル シャフト等を使用してサイドギヤが軽くまわることを確認する。

組み付け

- 1 デイファレンシャル ケースに第5-4表で選択したスラスト ワツシャを組み付ける。

注

油溝の無い方がケース側。

- 2 クラッチ プレートを組み付ける。
3 サイド ギヤ スラスト ワツシャを組み付ける。(両面に油溝あり)
4 サイド ギヤを組み付ける。

注

クラッチ プレートとサイド ギヤのスプラインを合せること。

- 5 クラッチ メンバ スラスト ワツシャを組み付ける。

注

油溝のある側をクラッチ メンバ側にしてストレート ピンをワツシャの穴に合せること。

- 6 クラッチ メンバ LHを組み付ける。
7 クラッチ メンバ LHにスプリング(4本)を組み付ける。
8 クラッチ メンバ RHにスモール ピニオンを組みクラッチ メンバ RHとLHの長手方向端面にあるセット記号を同一方向にして組み付ける。
9 ケース カバーに第5-4表で選択したスラスト ワツシャを組み付ける。

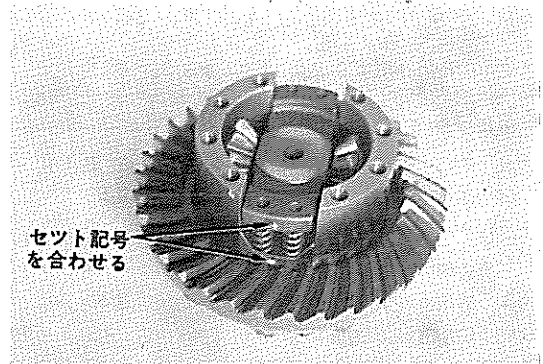
注

油溝のない側がケース カバー側

組み付け前の注意

- 1 デイファレンシャル ケース、ケース カバー、ボルト(ケース カバー取り付け用)はトリクレンで洗浄しておくこと。(洗浄剤はトリクレンと同程度の脱脂力があれば他の洗浄剤でも良い。
2 各ギヤ、スラスト ワツシャ、クラッチ メンバにはオイル(キヤツスル ハイポイド ギヤ オイル LSD SAE90)を塗布して組み付けること。
3 サイド ギヤおよびクラッチ プレートを交換した場合はそれと接触するスラスト ワツシャを交換すること。
4 組み付ける各 부품のうち再使用部品は分解時と同部所に組み付けること(位置、方向を変えないこと)。

5



第5-12図 クラッチ メンバ組み付け

C1108

- 10 クラッチ プレートを組み付ける。
11 サイド ギヤ スラスト ワツシャを組み付ける。(両面に油溝あり)
12 サイド ギヤを組み付ける。

注

サイド ギヤとクラッチ プレートのスプラインを合せること。

- 13 クラッチ メンバ スラスト ワツシャを組み付ける。

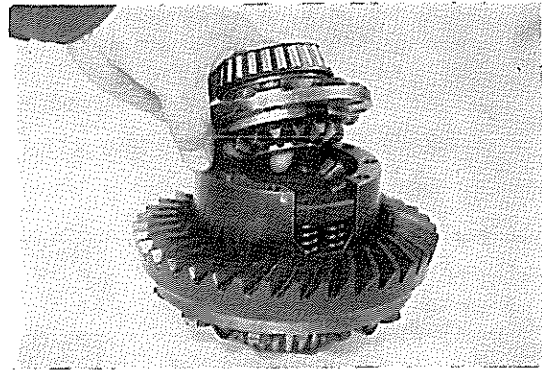
注

油溝のある側をクラッチ メンバ側にしてストレート ピンをワツシャの穴に合せること。

- 14 サイドギヤを組み付けたケースカバーをデ
イファレンシャルケースのマークを合せて
組み付ける。

注

サイドギヤのスプライン部より指を入れケースカ
バーよりサイドギヤ等が落ちないように組み付け
る。



第5-13図 ケースカバー組み付け

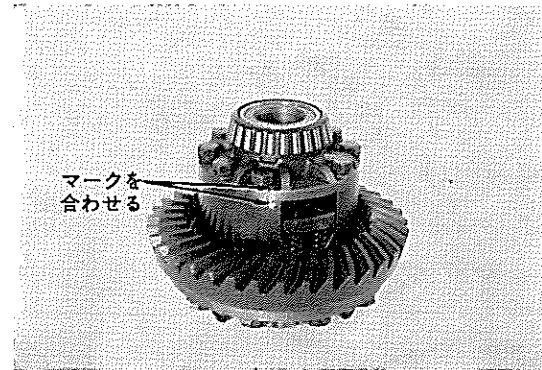
C1219

- 15 ケースカバー取り付けボルトに弛み防止剤
を塗布してカバーを締め付ける。

締め付けトルク 600~700 kg-cm

注

- クラッチメンバLHとRHの長手方向をセン
タリングさせる。
- クラッチメンバスラストワッシャがサイド
ギヤのストレートピンに合っていることを確
認する。
- 弛み防止剤はロックタイトを使用する。



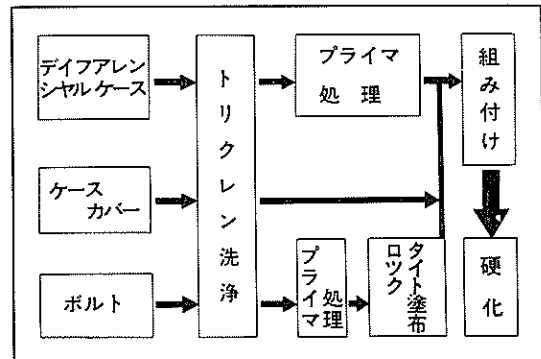
第5-14図 ケースカバー組み付け

C1105

ロックタイト使用法

- ケースのネジ部およびボルトにロッククイ
ックプライマTを塗布し充分乾燥させる。
- ケースのネジ部およびボルトにスタットロ
ックを塗布し締め付ける。
- 締め付け後3時間以上放置する(冬期は30~50°
C加温して放置する)。

- 16 デイファレンシャルケースをキャリヤに組
み付ける。(マークII修理書1972-1, 品番
67283を参照)



第5-15図 ロックタイト作用法

G0355

取り付け

- デイファレンシャルキャリヤをリヤアクス
ルに取り付ける。
- オイルを注入する。

キヤツスルハイポイドギヤオイル LSD
SAE90 1.3ℓ

注

RX22-MQG用リヤアクスルシャフトはMX系
型車より、5mm短くなっている。